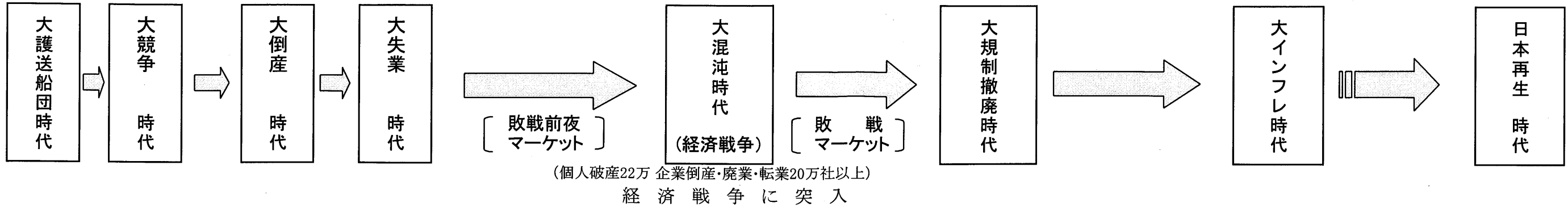


有事の時代



平時のモラル	有事のモラル	有事のモラル	有事のモラル	平時のモラルへ
	<p>国家非常事態 (戦争) 構造改革(生産性向上、デフレ化) 政府に対する国民の信頼感が問われる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国債の未達、金融の破綻 ・行、財政の破綻 ・構造改革に対する不信 <p>やれることは全てやる(平時のモラル必要なし) 国民が生き残れるようセフティネット</p>	<p>★マーケットが崩壊過程(平成恐慌)</p> <p>★世界大恐慌?</p> <p>建前と本音(本音の世界へ)</p> <p>(平成15~17年)</p> <p>一、日本経済は未曾有の危機に突入する 二、株式・国債・円の大暴落 三、四大銀行の1~2行が潰れる(大整理)</p>	<p>権力の一新 (護送船団の崩壊)</p> <p>自民党 小泉政権に対する自民党内抵抗勢力が選挙で国民に支持されず、一気に自民党崩壊?</p> <p>[ソ連共産党ゴルバチョフに対し、体制内の抵抗勢力(クーデター)、国民が支持せず一気にソ連共産党崩壊へ]</p> <p>敗戦処理 国家の債務処理 国債の投げ売り</p> <p>円安・ハイパーインフレ 長期金利の急上昇(10%以上) (国家体制の崩壊のときなどに起る)</p> <p>平成17年~19年 → 日本国の借金 > 金融資産</p> <p>大動乱の時期 平成20年 国家を揺るがすような事が起る</p> <p>金融機関の一時国有化? その後日本の再復興へ 国際投機資金流入 金融 消費者(国民)サイドに立った 金利高政策へ転換(消費刺激) 5%以上へ 不動産、株価上昇</p> <p>生命保険会社の大倒産(日銀生保金融システム外発言)</p> <p>グッド企業 再生へ(勝ち組とは時代に勝つ) バッド企業 処理へ(負け組とは時代に負ける)</p> <p>預金封鎖 新円発行</p> <p>投げ売り価格(投げ捨て) 新資産家の誕生(固定金利5-7年) 株・ゴールド・不動産・強い通貨建て貸付 外貨等投資(強い通貨)</p> <p>徳政令(借金棒引) 国家が国民の財産を棒引する</p> <p>金融資産と国の借金相殺</p> <p>ソ連崩壊と同じく体制によりかかった人ほど大変な目にあう 公務員・年金生活者・先生・労働者</p> <p>新資産家の台頭 旧資産家の没落</p>	<p>[有事の時代のモラルがこの時代の平時のモラルへ]</p> <p>構造改革成功日本再生へ 構造改革先送り日本衰退へ</p>
	<p>金融 現在サプライサイド(供給者重視)に立った ゼロ金利政策(護送船団行政) 銀行の国有化・諸規制慣習が瓦解へ 無担保特融拡大</p>			
	<p>企業経営 平時のモラルでは倒産(合成の誤謬) ・借金を返済していても借金が増えて破綻 企業の生き残りをかけた 決断と覚悟を問う</p>			
	<p>個人 平時のモラルでは財産も仕事も失う 危険性</p>			
	<p>平成の徳政令 国民の借金を棒引し、国に負担させる</p>			